

令和5年(2023)年6月29日(木)~7月2日(日) 利尻富士(1721m)登山&礼文島花散策&一寸稚内観光

2日目 6月30日金曜日 小雨時々曇り 日本最北端の百名山「利尻富士」登山

4時ごろ目を覚まして窓外を眺めたら、地面が濡れていて木々は大きく揺れていました。雨は霧雨なので我慢ができるとしても、特に風は気になりました。一瞬今日は無理かもしれないとの不安もよぎりました。

幸い山頂までの登山道をピストンで往復するので、危険を感じたら無理せず下山する覚悟で臨むことにしました。4時半に宿の車で登山口まで送ってもらうことにしました。

レポート：吉松



4時前に起床して登山準備を始めた。その時刻には既に宿の主人が朝食を準備してくれていた。



4時半に、宿の若い元気な女性が車で我々を北麓野営場(標高220m)まで送ってくれた。

女性の話では、数日前に滑落した親子がいたとのことであった。亡くなるような大事には至らなかったようだ。

(後ろの建物は野営場管理棟)



5時 野営場を出発
登山コースは、「^{おしどまり}鴛泊コース」

先頭を中島さん、続いて服部さん、塩瀬さん、吉松の順に並んでゆっくり歩くことにした。何しろ、今日の行程は10時間を超える。

10分程で日本名水百選に選ばれている「甘露泉水」に到着



日本最北端の名水を飲んだ。
確かにうまい！！



甘露泉水を後にして、3合目を目指す。
曇り空で霧雨が降っているのだが、気になるほどでは無い。

5時15分 3合目（標高270m）通過



姫沼、ポン山、利尻山を示す大きな標識が出てきた。

姫沼は昨日立ち寄った観光地だ。



鴛泊コースでは唯一の橋「乙女橋」



5時48分

4合目（標高390m）で小休止

「野鳥の森」と書かれている。いつもは鳥の鳴き声で賑やかなのかもしれない。



登山道の脇にポツリポツリと目にした花や実



6時35分 5合目（標高610m）に到着
標識には「雷鳥の道標」と書いてあるのだが、利尻山に雷鳥がいるのだろうか？



鴛泊コースの8合目辺りまでの登山道は急登がほとんどなく、しかも、よく整備されているので歩きやすい。山の環境管理は厳しく、

「携帯トイレ必携、ストックのキャップは必ず付ける、植物の上に座らない、踏み込まない」などのルールが徹底されている。登山届は、早くも宿で提出が求められた。

霧雨はほとんど気にならなくなった。レインウェアの上着もいらなくなった。



7時 6合目（標高760m）

第一見晴台に到着



見晴台で大休止

覆っていた雲が少しだけ薄くなってきた。遠くの島のはずれ辺りも望むことが出来た。



7時14分

7合目に向かって出発

雲が流れて僅かながら山の姿が見えてきた。

歩き始めてすぐに携帯トイレブースに着いた。携帯トイレの使い方もわかりやすく書いてある。





7時37分 7合目（895m）に到着

ここから先は「胸突き八丁」との標示がされていた。

登りがきつくなるだけではなく、足元がかなりドロドロ状態になっていた。

服部さんはそのことを指して、優しく「チョコレート状態」と呼んでいたが・・・



胸突き八丁に挑む前に小休止

5合目から7合目辺りまでに会った花々や木の実



7合目から第二見晴台（標高1120m）へ

足元はチョコレート状態

思い出したように降る霧雨の為、レインウェアを脱いだり着たりして大変だ！！





8時28分 第二見晴台に到着
(標高1120m)

この日の見晴台は名ばかりで、何もかも霧の中であった。



続いて

8時59分 8合目「長官山」に到着
(1218m)



登山書の説明文によると

「長官山に着くと、利尻富士の雄姿が姿を現す」

書いてある。む〜、今回は残念！！

この辺りが森林限界となっていて、高い樹木はほとんどなくなった。

高い樹木が減ってきた一方で、植物は益々沢山現れてきた。





長官山から15分位の鞍部に、避難小屋が建っていた。

携帯トイレブースと併設されている。

名前通り緊急時の避難場所としてのみ利用されている。



服部さんは背負っていた水の一部をここに置いておくことにした。

用心のため沢山ザックに入れていた水が、負担になり始めたからだ。

なんと、4.5リッターもの水を持ってきていたのだ。2リッターを下ろした。

（結局下山時にピックアップせずに、他の登山者に利用してもらうことにした。）



登山道はドロドロ状態から、火山性のスコリア（火山性噴出物の石）を敷き詰めたようになってきた。

砥石の上を歩いているようなものだ。



スコリア止めの場所で小休止

ここからも利尻富士は見上げられず、結局今回は雄姿をみることは叶わなかった。



一方で高山植物は咲いている数が増えてきて、少しずつお花畑の様相を呈してきた。



10時10分 9合目に到着
(標高1410m)

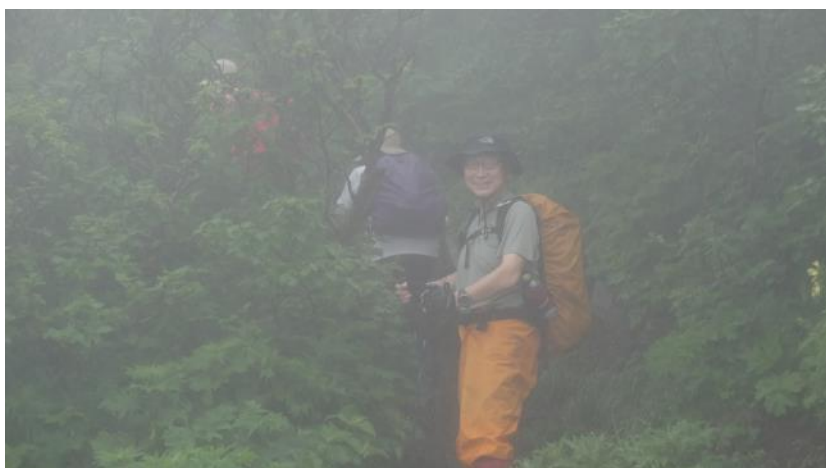
三か所目の携帯トイレブースが設置されている。足元は完全に火山性噴出物の石で覆われている。



9合目と書かれた標識には
「ここからが正念場」と書いてある。

山頂までは、ズルズルと足場の定まりにくいスコリアに加えて、急登、岩場が待っていた。

一方、楽しみは広がるお花畑か？



10時18分

正念場の残りの標高差300mを登り始めた。

塩瀬さんは笑顔で登る。まだまだ、ゆとり有りか？何しろ百名山踏破を目指している。残り20座位とか。



10時55分

杓形登山コース分岐地点に到着

杓形コースは親不知子不知（おやしらずこしらず）の難所があって、ガレ場のトラバースになっているという。残雪が残っている場合もあるそうだ。

我々はそのまますぎへ

足場はいよいよ悪くなった。特にスコリアが難物だ。



急登場所のスコリアは、硬質プラスチックの円筒に詰め込んで階段状の足場にしてある。

この整備を施してくれていないと、なかなか簡単に登れるものではない。

汗をかきかき、少しずつ上を目差して登った。



登りはきついけれど、沢山の花が楽しませてくれた。



11時22分

遂に山頂が目の前に現れた。先に到着した登山客の賑やかな話し声が聞こえる。

9合目を出発して丁度1時間ほどだから、まずまず順調であった。

11時28分 大山神社前にクマさん会旗が翻った！！ ここまで6時間30分の登山行であった。



足場の良いところを見つけて昼食タイム



我々が休んでいるのは北峰（1719m）

最高峰は南峰（1721m）だが、崩壊して
いて行くことは禁止されている。
現在、北峰を山頂としている。

中島さん、服部さんは南峰をバックに撮影
に興じていた。

高いところがお好きようで・・・
クワバラ くわばら！！



山頂でも、ついに霧は晴れることが無かった。

ただ、早朝に強かった風が吹いていなかったことは幸いか？

【閑話休題】

信心深い服部さんは祠に賽銭を入れて手を合わせていた。小銭を塩瀬さんから借りて投げ入れていたが、借りていた小銭は夕食時に塩瀬さんに返した。いくら手を合わせても、借りた賽銭ではご利益が無いのだそうだ。



山頂でのひと時を十分堪能して、12時に下山を開始

慎重に、慎重に、足元を確かめながら下山



【報告特別編】

下りだして30分、普通の登山者とは思えぬ集団が登ってくるのに遭遇



重そうな三脚を背負う人、マイクのお化けみたいなものを抱きかかえている人

NHKの撮影隊とのことであつた。

先頭に行くのは、
北海道山岳ガイド「塚原聡」
それに続くのは
女子プロテニスプレーヤー「伊達公子」

後で確認したところNHK BSプレミアムの番組収録だったらしい。

＝放送予定＝

令和5年7月15日18:00～19:30

タイトル:「につぼん憧れ絶景!花の競演礼文&利尻」

中島さんが、伊達公子さんのインスタグラムから彼女の山頂での写真を見つけてくれました。



我々は、NHK 撮影隊と別れて下山を続けた。



9 合目を少し下った辺りで、中島さんが利尻島固有種「リシリヒナゲシ」を見つけて写真に収めた。

火山崩壊礫の斜面に咲く日本固有種で、日本で唯一自生するケンダそうだ。



1 時間ほどで避難小屋まで下ってきた。



中島さん、服部さんは、避難小屋で一休み

服部さんが登りで置いていたペットボトルはそのまま利用されずに残っていた。

「ご自由にご使用ください」との張り紙を張って、他の登山者に供することにした。





13時40分

8合目まで下山



14時30分

7合目に到着

登山道のスコリアは大分少なくなって歩き易くなってきた。

【閑話休題】

吉松は半年ほど前にゴローの靴を新調した。

このところは、あまりゴツゴツした山に登っていない所為で、ゴローの靴は新調した時の姿を保っていた。

ところが、今回の登山行ですっかり傷ものになってしまった。あっちの岩にぶつけ、こっちの岩でこすり、そして登山道のスコリアで靴底はやすりでこすられたようになった。

靴にとっては散々な目に遭った。



14時54分

6合目 （標高760m）第一見晴台

もう少しだけ霧が晴れてくれたら、大海原や礼文島なども見えるはずなのだが・・・





15時26分
5合目で小休止

既に10時間を超える歩行をしている。
段々皆の口数が減ってきているのはやむを得ない。

【閑話休題】

利尻島には大型の動物は生息していない。かつて、熊が北海道本島から泳いで渡ってきて大騒動になったことがあるそうだが、その後沙汰止になっている。

島にはかわいい「シマリス」がいる。島のマスコットになっていて、街中にも時々現れるそう。

登山道を横切るところを、塩瀬さん、服部さん、中島さんは見た。残念ながら吉松は見る事が出来なかった。



16時2分

4合目を通過

登山道の勾配も緩やかになって、足の運びも軽快になってきた。



16時26分

乙女橋を渡って・・・



3 合目

甘露泉水に戻った。



1 6 時 3 8 分

長い、長い下山も終わって、北麓野営場に戻った。

実に 1 1 時間 3 0 分の登山行であった。

野営場で、やっと人心地が付いた。

泥まみれの靴やスパッツ類を洗って、宿からの迎えの車を待った。

迎えの車は直ぐに来た。運転している若い宿の女性が元気で賑やかな方で、我々も再び元気が出てきたようだ。

1 7 時に、宿に戻った。

この宿の風呂は大きいので、手足を思う存分伸ばすことが出来る。

風呂にゆっくり入って疲れをいやすことにした。夕食は、昨日と同じく 1 8 時 3 0 分からとることにした。

やってきました、待ちに待った夕食が・・・

昨日は少々自粛していた塩瀬さんも服部さんも、ビールで、飲む気満々の大乾杯！！

続いて、日本酒も遠慮なく注文してほろ酔い加減になりました。





今日はエビ、メバルの煮つけが付きまして・・・
昨日と同じくウニも付き・・・
海の幸一杯です。



ジンギスカン鍋まで付いて、皆さん、ご満悦でした。

昨日は、礼文島行きの飛行機が出発地の札幌に引き返すも知れないという危機に遭遇しました。今日は、朝から雨で風も強いという危機に見舞われました。

何とかそんな危機を乗り越えての利尻富士登山となりました。薄氷を踏むようなものでしたが、無事に山頂に立てて満足しました。これも、服部さんの信心のお陰か・・・？

昨日は夕食にカニが出ました。カニに目のない中島さんはご機嫌でした。もう一つのこだわりは、ウニでした。2日続けてウニが食卓に並びましたが、昨日のウニは甘みがたっぷり、今日のウニはやや甘みに難ありと、辛口の評でした。どうやら海が荒れてウニ漁が中止になった所為かもしれません。またのチャンスがあるでしょう。

塩瀬さんは馬力があります。なにしろ、百名山踏破を目指していますので性根が違いました。残りの20座程を今後2年間で登りきりたいとの意気込みでした。

吉松は計画者ではあったものの、久しぶりの10時間超の登山に耐えられるかが心配でした。何とか登り切った今は、満足感で一杯です。もう一寸頑張れるかな・・・と、またやる気が出てきました。